

# 令和5年度 第2回 大槌町総合教育会議 提案書

— けやき共育が目指す姿を実現するために —

---

# 再掲：けやき共育が目指す姿（会議資料より作成）

## けやき共育

大槌町の0歳から18歳までのすべての子供たちを対象に、特別支援教育の視点で支援することで、「目指す子どもの姿（自立・協働・創造）」「誰一人取り残さない学びの保障」の実現を目指すものである。

### 最上位目標

1. すべての子供たちが、安心・安全に学習ができる  
（※すべての子供たちのウェルビーイングの実現）
2. すべての子供たちに適切な支援ができる

### 上位目標

- ①幼児への支援が充実している
- ②児童生徒一人ひとりに居場所があり、個に応じた適切な支援ができています
- ③保育園、幼稚園、こども園、小中高校の教員が、特別支援教育の視点で、子供たちを支援することができている
- ④保護者や地域で「けやき共育」の理解ができています

### 「特別支援教育の視点で支援する」とは？

幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導および必要な支援を行うものである。

### 令和5年度のけやき共育の目標

- ◎子供たちが安心・安全に学習ができる
- ◎総合教育会議を要に、今年度の事業をPDCAサイクルで推進する
- ◎各事業を通して、町民・教職員・教育支援施設職員がけやき共育の目的を共有し、子供たちへの支援のあり方を、町民・教職員・教育支援施設職員等が共に学び、子供たちへの支援の充実を図る。

# 目指す姿の実現に向けて①－ビジョンの共有－

## 町民・教職員・教育支援施設職員との間につくりたい共通認識は何か？

けやき共育の目標は言語化されているが、ここにある言葉は様々な解釈の余地があるようにも見える。各自の解釈に委ねる部分もある一方で、解釈をすり合わせておきたいこと、共通の認識としておきたいことはあるのか。あるとすれば、それはどのようなものか。複数の関係者に「けやき共育」やその目的の理解を求めていくのであれば、つくりたい共通認識とは何なのか、明らかにしておきたい。

### 上位目標

- ① 幼児への支援が充実している
- ② 児童生徒一人ひとりに居場所があり、個に応じた適切な支援ができている
- ③ 保育園、幼稚園、こども園、小中高校の教員が、特別支援教育の視点で、子供たちを支援することができている
- ④ 保護者や地域で「けやき共育」の理解ができています

### 令和5年度のけやき共育の目標

- ◎ 子供たちが安心・安全に学習ができる
- ◎ 総合教育会議を要に、今年度の事業をPDCAサイクルで推進する
- ◎ 各事業を通して、町民・教職員・教育支援施設職員がけやき共育の目的を共有し、子供たちへの支援のあり方を、町民・教職員・教育支援施設職員等が共に学び、子供たちへの支援の充実を図る。



「みんなの学校」上映会を通して伝えたいメッセージとは？

# 目指す姿の実現に向けて②—予防と対処—

## 予防のための施策と不登校になってからの対応策を整理・可視化する

けやき共育に関連する取組を「①不登校になる前の予防的施策」「②不登校になってからの事後的施策」に分けて整理・可視化することで、予防・事後対応の両面から不登校という課題にアプローチできているか明確にしておきたい。また、ここでも測定すべき評価指標と施策の紐付を確認し、目指すべきゴールと施策がうまく対応しているかPDCAを回していく。

### 不登校になる前の予防的施策

新規不登校発生数(率)  
不登校児童生徒の出現率  
アンケート目標数値

けやき共育の理解推進に係る施策

各学校の別室での学習支援に係る策

ハイリスク児童生徒の早期発見に係る施策

etc

測定指標

指標改善に向けた施策

### 不登校になってからの事後的施策

支援等への接続率  
学習の支援体制の活用割合

学校外の多様な学びの場に係る施策

ふるさと科に係る施策

保護者支援に係る施策

etc

# 目指す姿の実現に向けて③—施策とターゲット—

## それぞれの学びの場で支援する・支援できるこども像を明確に

けやき共育では多様な学びの場の選択肢を用意しているが、それぞれの居場所でどのような支援を行い、どのようなこどもたちをターゲットとするのか明確にしておく必要がある。また、学びの場の選択肢をこども・保護者に周知し、実際に接続・定着させていくためには、SSW等によるアウトリーチ、コーディネートが重要である。

### 大槌町 多様な学びの場の選択肢

#### ①各学園内別室



#### ②適応支援支援教室 (OLAI内)

けやき共室



#### ③岩手県立大槌高校内

コラボスクール (認定NPO法人カタリバ)



学習支援を実施

自宅以外の場所で、  
家族以外の大人と  
関われるように支  
援することを目的  
とする

SSWによる支援

けやき相談チーム  
教育相談員、SC、SSW、担当指導主事、医師他

#### ④校外活動けやき体験学習



体験活動を中心とした  
キャリア教育を実施

すべての選択肢において、支援の目的が「自宅以外の場所で家族以外の大人と関われるようにすること」とするならば、

- 各選択肢のターゲット像にちがいはあるか？
- 各選択肢に共通する支援や考え方は何か？
- 各選択肢での支援のちがいは何か？
- 接続先をどのように判断していくか？
- それぞれの担い手は誰か？

# 目指す姿の実現に向けて④—ICT活用—

## チャット相談の導入・活用は、学校から子どもたちへの直接周知が重要 子どもの声が可視化されることで、対応が増えることも想定しておく

認定NPO法人カタリバが石川県加賀市と連携して取り組む「子どもSOS相談窓口”ブリッジ”」では、GIGAスクール構想により配布された端末から、児童生徒がアプリを通じて相談をすることができる。市内各学校で子どもたちに使い方を練習した後、2023年10月のメッセージ件数は570件を超えた。まずはメッセージを送ってみることで、子どもが使い方を体感することが重要である。



### ブリッジの実践から見た相談の特徴

◎相談件数のうち8割は、大人の介入を望まない、聞いてほしい・寄り添ってほしいケース



例：女子だけど男子になりたいという相談



例：ケンカした友だちと仲直りしたいという相談

◎相談件数のうち2割は、大人の介入（課題解決や学校での見守り等）が必要なケース



例：クラス内でのいじめに関する相談



例：希死念慮が感じられる相談

これまで見えなかった課題が可視化されるため、関係者が対応に動くことが増えることを想定しておきたい